

だれが神の国に入るのか

2020年9月6日

マタイ 21章

序：キリストの受難週（公生涯の最後の週） The Passion Week

ヨハネ伝、マルコ伝が詳しい

ローマ総督ピラト、ユダヤの王ヘロデ・アンテパスもエルサレムにいた

日 勝利の入城（子ろばに乗って）

マタイ 21・1～11

月 エルサレム神殿の商人たち（宮きよめ）

マタイ 21・10～13

イエス、ベタニヤに帰る

マタイ 21・14～17

火 実のないいちじくの木を枯らす 21・18～22 視覚教材
指導者たちがイエスに敵対（権威をめぐる論争）

マタイ 21・23～27

イエス、オリーブ山で教える

マリヤがイエスに香油ヲ注ぐ

ユダが裏切りを画策

水 ベタニヤで過ごす

木 過越の祭りの準備

過越の食事（最後の晩餐）

ゲッセマネへ

金 逮捕

尋問（大祭司 アンナス） ペテロの否認

議会

ヘロデ ピラト

ユダの死

十字架刑

死

埋葬

日 復活

- I. 「ふたりの息子」と「主人の息子を殺した農夫たち」のたとえ
受難週の火曜日にイエスが話された教え、たとえ話（21・23～25・46）
の一部

聴衆は祭司長、民の長老たち（イエスをどうにかして陥れ、殺害を図る）

この2つの喩え話の目的

(1)ふたりの息子（彼らの今までの態度）

兄：ユダヤ教指導者たち（先に招かれ、よい返事をするが拒否）

弟：取税人や遊女たち（はじめは拒否、後で悔い改めて従う）

ユダヤ教指導者の頑なさ、愚かさの罪を示す

” が罪を悔い改め、救いにあずかるには信仰が必要
バプテスマのヨハネがもたらした義の道

3 2 節：悔いることもなく、かつ彼を信じなかった
∴このままでは、神の国に入れない

取税人や遊女はバプテスマのヨハネ（の告げたこと）を信じた
” 先に神の国に入っている

(2)主人の息子を殺した邪悪な農夫たち

ユダヤ教指導者たちがしようとしている大罪の預言

主人：父なる神

ぶどう園：イスラエル（神の国）イザ5・1~7

垣、やぐら、酒ぶね（主人の贈り物）

農夫たち：不信仰なユダヤ人 しもべたち：神が派遣した預言者たち

息子：メシヤ（イエス・キリスト）

神の忍耐、農夫たちの反逆・財産を奪い取るため

息子殺し

結果：悪党どもを殺して、そのぶどう園を別の農夫に貸す
新約の信者

II. イエスの苦難と死の預言

(1)その息子こそ自分

父に遣わされて来たが、ご自分の民は拒む ヨハネ 1・11

(2)見捨てた石＝礎＝神の救いの計画を成就する者

(3)血統上のイスラエルに代わって、霊的イスラエル（教会）がキリストを
基として建てられる

III. その石がもたらす結果

(1)その石（イエス・キリスト）の上に落ちる人は粉々に碎かれる

罪を示され、自我を碎かれ、もはや自分に頼らず、主を信じお任せする
救いをもたらす

(2)その石（イエス・キリスト）が人の上に落ちる

頑迷で主を受け入れない者には滅びをもたらす

IV. 祭司長やパリサイ人の反応

(1)自分たちについて話していることに気づく

(2)イエスを捕らえようとしたができなかった。（群衆を恐れた）

V. 私たちキリスト信者

(1)神の国に入る保証がある（聖霊の内住）

(2)主の再臨まで、主の死を告げ知らせる

(3)悔い改めない者に及ぶ滅びを警告、救いに招く